

(様式第 10)

富大病総第 174 号
平成 29 年 10 月 4 日

厚生労働大臣

殿

国立大学法人富山大学長
開設者名 遠藤俊郎 (印)

国立大法人富山大学附属病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 28 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒930-8555 富山市五福3190
氏 名	国立大学法人富山大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

国立大学法人富山大学附属病院

3 所在の場所

〒930-0194 富山市杉谷2630	電話(076)434-2281
------------------------	-----------------

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜
2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	①	無	
内科と組み合わせた診療科名等			
①呼吸器内科	②消化器内科	③循環器内科	4腎臓内科
⑤神経内科	⑥血液内科	⑦内分泌内科	⑧代謝内科
⑨感染症内科	10アレルギー疾患内科またはアレルギー科	11リウマチ科	
診療実績			

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 ①呼吸器外科 ②消化器外科 ③乳腺外科 4心臓外科 5血管外科 ⑥心臓血管外科 ⑦内分泌外科 ⑧小児外科	
診療実績	

- (注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

①精神科 ②小児科 ③整形外科 ④脳神経外科 ⑤皮膚科 ⑥泌尿器科 7産婦人科 ⑧産科 ⑨婦人科 ⑩眼科 ⑪耳鼻咽喉科 12放射線科 ⑬放射線診断科 ⑭放射線治療科 ⑮麻酔科 ⑯救急科

- (注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1小児歯科 2矯正歯科 ③口腔外科	
歯科の診療体制	

- (注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。
2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 漢方内科 2 病理診断科 3 4 5 6 7
8 9 10 11 12 13 14
15 16 17 18 19 20 21

- (注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
43床	床	床	床	569床	612床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	340人	97人	364.6人	看 護 補 助 者	23人	診療エックス線技師	0人
歯 科 医 師	12人	11人	14.5人	理 学 療 法 士	7人	臨床検査技師	39人
薬 剤 師	35人	0人	35人	作 業 療 法 士	4人	衛生検査技師	0人
保 健 師	0人	0人	0人	視 能 訓 練 士	6人	そ の 他	0人
助 産 師	42人	0人	42人	義 肢 装 具 士	0人	あん摩マッサージ指圧師	0人
看 護 師	678人	7人	683.4人	臨 床 工 学 士	14人	医療社会事業従事者	6人
准 看 護 師	0人	0人	0人	栄 養 士	0人	その他の技術員	29人
歯 科 衛 生 士	2人	0人	2人	歯 科 技 工 士	0人	事 務 職 員	108人
管理栄養士	8人	0人	8人	診 療 放 射 線 技 師	34人	そ の 他 の 職 員	19人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	40人	眼 科 専 門 医	11人
外 科 専 門 医	27人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	9人
精 神 科 専 門 医	8人	放 射 線 科 専 門 医	10人
小 児 科 専 門 医	22人	脳 神 経 外 科 専 門 医	12人
皮 膚 科 専 門 医	7人	整 形 外 科 専 門 医	15人
泌 尿 器 科 専 門 医	6人	麻 酔 科 専 門 医	15人
産 婦 人 科 専 門 医	18人	救 急 科 専 門 医	4人
		合 計	204人

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
 2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (齋藤 滋) 任命年月日 平成22年10月17日

- 平成22年10月17日～平成27年9月30日、医療安全管理委員会 4号委員 (診療科長)。
- 平成28年3月6日～平成28年3月31日、医療安全管理委員会委員長 1号委員 (病院長事務取扱)。
- 平成28年4月1日～平成30年3月31日、医療安全管理委員会委員長 1号委員 (病院長)。

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	491.7人	10.4人	502.1人
1日当たり平均外来患者数	1,172.3人	54.3人	1,226.6人
1日当たり平均調剤数	362.7剤		
必要医師数	120.1人		
必要歯科医師数	4.0人		
必要薬剤師数	17人		
必要(准)看護師数	293人		

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	412.41m ²	鉄筋コンクリート	病床数	23床	心電計	(有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急蘇生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合]	床面積	268m ²		病床数	23床
	[移動式の場合]	台数	台			
医薬品情報管理室	[専用室の場合]	床積	36m ²			
		[共用室の場合]	共用する室名			
化学検査室	432m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)臨床検査自動化システム、血液ガス分析統合システムなど			
細菌検査室	96m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)細菌検査システム、マイクロスキャンWalkAway 96Siリファージュなど			
病理検査室	113m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)病理診断支援システム、バーチャルスライドシステムなど			
病理解剖室	78m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)感染症対策解剖台システム、強制排気切出し台など			
研究室	7,463m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)細胞分析分取装置、電子線照射装置など			
講義室	358m ²	鉄筋コンクリート	室数	2室	収容定員	388人
図書室	3,528m ²	鉄筋コンクリート	室数	1室	蔵書数	220,205冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

紹介率	76.7%	逆紹介率	64.3%
算出根拠	A: 紹介患者の数		8,941人
	B: 他の病院又は診療所に紹介した患者の数		8,079人
	C: 救急用自動車によって搬入された患者の数		693人
	D: 初診の患者の数		12,568人

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
小坂 健夫	金沢医科大学	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・ 無	1
木下 実	木下法律事務所		法律に関する識見を有する者	有・ 無	
林 忠子	富山大学附属病院患者会		医療を受ける者	有・ 無	
神田 和明	富山大学		学長が指名した理事（総務・財務担当）	有・ 無	
				有・無	
				有・無	

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1~3のいずれかを記載すること。
 1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有 ・無
委員の選定理由の公表の有無	有 ・無
公表の方法 本学のホームページで公表。	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
急性リンパ性白血病細胞の免疫遺伝子再構成を利用した定量的PCR法による骨髄微小残存病変(MRD)量の測定	0人
前眼部三次元画像解析	23人
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	22人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
ハイパードライヒト乾燥羊膜を用いた外科的再建術 再発翼状片 (増殖組織が角膜輪部を超えるものに限る)	2人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示
第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	経気管支超音波画像下リンパ節生検	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要 縦隔リンパ節病変は悪性腫瘍転移や悪性リンパ腫などがあり組織診断が重要となる。気管支内視鏡先端に超音波装置のついた特殊内視鏡を用いて比較的侵襲で検査が行える。			
医療技術名	冠動脈CT撮影	取扱患者数	348人
当該医療技術の概要 冠動脈の状態を調べるために、造影剤を急速静注したのち、心電図と同期して心臓全体の撮影を行う。専用の3Dワークステーションを用いて、冠動脈の解析を行える。心臓カテーテル検査より安全、簡便に検査可能である。			
医療技術名	心臓MRI	取扱患者数	26人
当該医療技術の概要 シネMRIは現在最も正確な心機能と局所壁運動の診断法であり、遅延造影MRIは現在最も正確な心筋梗塞の画像診断法である。空間分解能が高いため右室梗塞や心内膜化梗塞も明瞭に診断できる。(冠動脈病変の非侵襲的診断法に関するガイドラインICS2009)			
医療技術名	経皮的心房中隔欠損閉鎖術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要 心房中隔欠損症に対してカテーテルにより閉塞栓を用いて閉鎖術を行っている。			
医療技術名	先天性心疾患のカテーテル治療	取扱患者数	40人
当該医療技術の概要 動脈管開存、肺動脈狭窄、大動脈狭窄のカテーテル治療の他、フォンタン術後患者の側副血管に対するコイル塞栓術を行っている。			
医療技術名	心筋緻密化障害を含む心筋症の遺伝子解析	取扱患者数	25人
当該医療技術の概要 全国から心筋症の遺伝子解析の依頼を受け、年間50例の解析を行っている。			
医療技術名	冠動脈CT撮影	取扱患者数	357人
当該医療技術の概要 冠動脈の状態を調べるために、造影剤を急速静注したのち、心電図と同期して心臓全体の撮影を行う。専用の3Dワークステーションを用いて、冠動脈の解析を行える。心臓カテーテル検査より安全、簡便に検査可能である。			
医療技術名	心房(室)細動のカテーテル・アブレーション	取扱患者数	134人
当該医療技術の概要 抗不整脈薬が無効な心房細動の根治術として高周波エネルギーを用いたアブレーションを行っている。			
医療技術名	慢性血栓性肺高血圧に対するカテーテル治療	取扱患者数	7人
当該医療技術の概要 慢性血栓性肺高血圧は、薬物治療に抵抗性であり、閉塞した肺動脈をバルーンで拡張することにより肺高血圧の軽減を図る。			
医療技術名	心不全・虚血性心疾患に対する和温療法	取扱患者数	29人
当該医療技術の概要 薬剤治療抵抗性の心不全や狭心症例に対して、全身の温熱療法(和温療法)により心機能改善・QOLや運動耐容能改善を図る。			
医療技術名	LDLアフェレーシス療法	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要 難治性ネフローゼ症候群や閉塞性動脈硬化症に対して、LDLアフェレーシス療法を行っている。			

医療技術名	経カテーテル大動脈弁留置術	取扱患者数	30人
当該医療技術の概要			
手術に耐えられない、あるいは手術リスクが非常に高い患者さんに対して、カテーテルを用いた体への負担が小さい治療であるTAVI(バルーンカテーテルに人工弁を乗せて大動脈弁まで運び、バルーンを拡張して留置する手術)を行っている。			
医療技術名	PCR法による羊水内感染の同定	取扱患者数	56人
当該医療技術の概要			
検査・輸血細胞治療部仁井見准教授が開発した新規PCR法により、切迫早産例の羊水内感染の有無を同定している。			
医療技術名		取扱患者数	人
当該医療技術の概要			

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	1	56	ベーチェット病	26
2	筋萎縮性側索硬化症	14	57	特発性拡張型心筋症	23
3	脊髄性筋萎縮症	1	58	肥大型心筋症	4
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	16	60	再生不良性貧血	6
6	パーキンソン病	127	61	自己免疫性溶血性貧血	0
7	大脳皮質基底核変性症	6	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	2
8	ハンチントン病	4	63	特発性血小板減少性紫斑病	19
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	0
10	シャルコー・マリー・トウス病	0	65	原発性免疫不全症候群	5
11	重症筋無力症	25	66	IgA腎症	7
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	9
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	47	68	黄色靱帯骨化症	4
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	13	69	後縦靱帯骨化症	41
15	封入体筋炎	1	70	広範脊柱管狭窄症	4
16	クドウ・深瀬症候群	1	71	特発性大腿骨頭壊死症	14
17	多系統萎縮症	12	72	下垂体性ADH分泌異常症	1
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	28	73	下垂体性TSH分泌亢進症	0
19	ライソゾーム病	0	74	下垂体性PRL分泌亢進症	4
20	副腎白質ジストロフィー	0	75	クッシング病	3
21	ミトコンドリア病	5	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	1
22	もやもや病	36	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	4
23	プリオン病	2	78	下垂体前葉機能低下症	21
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	1	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	1
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	7	83	アジソン病	0
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	35
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	11
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	7
32	自己貪食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	6
34	神経線維腫症	10	89	リンパ脈管筋腫症	2
35	天疱瘡	6	90	網膜色素変性症	36
36	表皮水疱症	1	91	バッド・キアリ症候群	0
37	膿疱性乾癬(汎発型)	1	92	特発性門脈圧亢進症	0
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	0	93	原発性胆汁性肝硬変	25
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	0
40	高安動脈炎	8	95	自己免疫性肝炎	6
41	巨細胞性動脈炎	0	96	クローン病	61
42	結節性多発動脈炎	4	97	潰瘍性大腸炎	53
43	顕微鏡的多発血管炎	9	98	好酸球性消化管疾患	4
44	多発血管炎性肉芽腫症	6	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	6	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	13	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	バージャー病	6	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	0	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	91	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	47	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	33	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	20	107	全身型若年性特発性関節炎	0
53	シェーグレン症候群	17	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	6	109	非典型溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	3	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	1	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	3
113	筋ジストロフィー	3	163	特発性後天性全身性無汗症	0
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	0	167	マルファン症候群	0
118	脊髄髄膜瘤	0	168	エーラス・ダンロス症候群	0
119	アイザックス症候群	0	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	2
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性 白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優 性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性び まん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	0	177	有馬症候群	0
128	ピッカーstaff脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	1	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリズ症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	0
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	プラダー・ウィリ症候群	1
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンブソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん 性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	0	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	2	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	0
160	先天性魚鱗癬	1	210	単心室症	0

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症	0
212	三尖弁閉鎖症	0	260	シトステロール血症	0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病	0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイロミクロン血症	0
215	ファロー四徴症	0	263	脳腫黄色腫症	1
216	両大血管右室起始症	0	264	無βリポタンパク血症	0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症	0
218	アルポート症候群	0	266	家族性地中海熱	0
219	ギャロウェイ・モフト症候群	0	267	高IgD症候群	0
220	急速進行性糸球体腎炎	0	268	中條・西村症候群	0
221	抗糸球体基底膜腎炎	0	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群	0
222	一次性ネフローゼ症候群	1	270	慢性再発性多発性骨髄炎	0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	0	271	強直性脊椎炎	8
224	紫斑病性腎炎	1	272	進行性骨化性線維異形成症	0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症	0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0	274	骨形成不全症	0
227	オスラー病	0	275	タナトフォリック骨異形成症	0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症	0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーハム病	0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)	0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)	0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)	0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群	0
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血	0
235	副甲状腺機能低下症	1	283	後天性赤芽球癆	1
236	偽性副甲状腺機能低下症	0	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血	0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンコニ貧血	0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	1	286	遺伝性鉄芽球性貧血	0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群	0
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性出血病XIII	0
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群	0
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症	0
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸型)	0
244	メープルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症	0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残	0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア	0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫	0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症	0
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群	0
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膀胱炎	0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症	0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患	1
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー	0
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症	1
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群	0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴	0
257	肝型糖原病	1	305	遅発性内リンパ水腫	0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎	1

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
307	カナパン病	319		セピアプテリン還元酵素(SR)欠損症	
308	進行性白質脳症	320		先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症	
309	進行性ミオクローヌステんかん	321		非ケトーシス型高グリシン血症	
310	先天異常症候群	322		β -ケトチオラーゼ欠損症	
311	先天性三尖弁狭窄症	323		芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症	
312	先天性僧帽弁狭窄症	324		メチルグルタコン酸尿症	
313	先天性肺静脈狭窄症	325		遺伝性自己炎症疾患	
314	左肺動脈右肺動脈起始症	326		大理石骨病	
315	ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症	327		特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。)	
316	カルニチン回路異常症	328		前眼部形成異常	
317	三頭酵素欠損症	329		無虹彩症	
318	シトリン欠損症	330		先天性気管狭窄症	

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・特定機能病院基本料 一般病棟 7対1入院基本料	・ハイケアユニット入院医療管理料 1
・特定機能病院基本料 精神病棟 13対1入院基本料	・総合周産期特定集中治療管理料
・超急性期脳卒中加算	・新生児治療回復室入院医療管理料
・診療録管理体制加算 2	・小児入院医療管理料 2
・医師事務作業補助体制加算1 30対1	・地域歯科診療支援病院歯科初診料
・急性期看護補助体制加算(25対1, 5割未満)	・歯科外来診療環境体制加算
・看護職員夜間配置加算	・歯科診療特別対応連携加算
・看護補助加算2	・
・療養環境加算	・
・重症者等療養環境特別加算	・
・無菌治療室管理加算 1	・
・無菌治療室管理加算 2	・
・精神病棟入院時医学管理加算	・
・精神科身体合併症管理加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1, (感染防止対策地域連携加算)	・
・患者サポート体制充実加算	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・データ提出加算2	・
・退院支援加算1 地域連携加算	・
・精神疾患診療体制加算	・
・特定集中治療室管理料 4	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・高度難聴指導管理料	・神経学的検査
・糖尿病合併症管理料	・補聴器適合検査
・がん性疼痛緩和指導管理料	・ロービジョン検査判断料
・がん患者指導管理料 1	・小児食物アレルギー負荷検査
・がん患者指導管理料 2	・内服・点滴誘発試験
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・画像診断管理加算 2
・院内トリアージ実施料	・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・外来放射線照射診療料	・CT撮影及びMRI撮影
・ニコチン依存症管理料	・冠動脈CT撮影加算
・ハイリスク妊産婦共同管理料(Ⅰ)	・心臓MRI撮影加算
・がん治療連携計画策定料	・乳房MRI撮影加算
・肝炎インターフェロン治療計画料	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・薬剤管理指導料	・外来化学療法加算 1
・医療機器安全管理料1(生命維持装置使用)	・無菌製剤処理料
・医療機器安全管理料2(放射線治療計画策定)	・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅱ)初期加算
・持続血糖測定器加算及び皮下連続式グルコース測定	・運動器リハビリテーション料(Ⅰ)初期加算
・遺伝学的検査の注	・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ)初期加算
・HPV核酸検出	・認知療法・認知行動療法 1
・検体検査管理加算(Ⅳ)	・医療保護入院等診療料
・国際標準検査管理加算	・硬膜外自家血注入
・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算	・透析液水質確保加算 1
・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト	・医科点数表第2章第10部手術の通則の5及び6 (歯科点数表第2章第9部手術の通則4を含む)に掲げる手術
・胎児心エコー法	・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算
・ヘッドアップティルト試験	・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る。)
・長期継続頭蓋内脳波検査	・骨移植術(軟骨移植術を含む)(自家培養軟骨移植術に限る)
・脳磁図	・腫瘍脊椎骨全摘出術

施設基準の種類	施設基準の種類
・脳刺激装置植込術及び脳刺激装置交換術	・同種死体腎移植術
・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・生体腎移植術
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・膀胱水圧拡張術
・網膜付着組織を含む硝子体切除術(眼内内視鏡を用いるもの)	・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術
・網膜再建術	・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの)
・人工内耳植込術	・輸血管管理料 I
・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術 内視鏡下バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉) 内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術	・輸血適正使用加算
・乳がんセンチネルリンパ節加算1及びセンチネルリンパ節生検(併用)	・貯血式自己血輸血管管理体制加算
・乳がんセンチネルリンパ節加算2及びセンチネルリンパ節生検(単独)	・人工肛門・人工膀胱造設術前処理加算
・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)	・麻酔管理料(I)
・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによる)	・麻酔管理料(II)
・経カテーテル大動脈弁置換術	・放射線治療専任加算
・経皮的中隔心筋焼灼術	・外来放射線治療加算
・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術	・高エネルギー放射線治療
・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術	・1回線量増加加算
・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び 経静脈電極抜去術	・強度変調放射線治療(IMRT)
・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び 両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術	・画像誘導放射線治療加算(IGRT)
・大動脈バルーンパンピング法(IABP法)	・体外照射呼吸性移動対策加算
・補助人工心臓	・定位放射線治療
・医科点数表第2章第10部手術の通則16に掲げる手術 (胃瘻造設術)	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除 (葉以上)を伴うもの)	・保険医療機関の連携による病理診断
・腹腔鏡下肝切除術	・テレパソロジーによる術中迅速病理組織標本作製
・生体部分肝移植術	・テレパソロジーによる術中迅速細胞診
・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術	・病理診断管理加算2
・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術	・歯科治療総合医療管理料(I)及び(II)
・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術	・医療機器安全管理料(歯科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・歯科口腔リハビリテーション料 2	・
・歯周外科手術(歯周組織再生誘導手術) 1次	・
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	・
・クラウン・ブリッジ維持管理料	・
・CAD/CAM冠	・
・口腔病理診断管理加算 2	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・硬膜外自家血注入	・
・内視鏡下甲状腺部分切除、腺腫摘出術 内視鏡下バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉) 内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	臨床検査部門: 1か月に2~4回程度開催 病理診断部門: 1か月に9~12回程度開催
剖 検 の 状 況	剖検症例数 34例 / 剖検率 13.9%

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
PDGFが誘導する幹細胞を標的とした神経組織の再生と修復	笹原 正清	病態・病理学	¥2,300,000	(補委) 日本学術振興会
水痘ウイルスのAntigenic modulationによる潜伏感染の解析	白木 公康	ウイルス学	¥2,600,000	(補委) 日本学術振興会
母体、胎児免疫相関から見た妊娠維持機構ならびにその破綻	齋藤 滋	産科婦人科学	¥3,100,000	(補委) 日本学術振興会
向精神薬服用患者に対する安全な全身麻酔管理に関する基礎的研究	佐々木 利佳	麻酔科学	¥800,000	(補委) 日本学術振興会
敗血症病態におけるGRK2の創薬標的分子としての可能性の探究	服部 裕一	分子医科薬理学	¥1,200,000	(補委) 日本学術振興会
超音波マイクロバブルを用いた劇症肝炎の新しい治療法の開発	峯村 正実	第三内科	¥800,000	(補委) 日本学術振興会
クッパー細胞を標的としたドラッグデリバリーシステムを用いたNASH治療法の開発	高原 照美	内科学(三)	¥1,200,000	(補委) 日本学術振興会
腎除神経による心不全の自律神経概日リズム異常への介入に関する研究	平井 忠和	第二内科	¥200,000	(補委) 日本学術振興会
M2マクロファージの2型糖尿病発症における役割	戸辺 一之	内科学(一)	¥400,000	(補委) 日本学術振興会
SIRSを本体とする重症感染症に対する抗菌薬のサイトカイン産生抑制の意義	酒巻 一平	感染予防医学	¥1,100,000	(補委) 日本学術振興会
精神病発症危険状態から統合失調症への移行に関わる脳形態変化についての研究	高柳 陽一郎	精神神経科	¥1,100,000	(補委) 日本学術振興会
精神病発症危険群における嗅覚機能および嗅覚関連脳構造に関する研究	高橋 努	神経精神医学	¥700,000	(補委) 日本学術振興会
難治性硬膜動静脈瘤に対する新たな治療:ペバシズマブの治療効果の解明	秋岡 直樹	脳神経外科	¥1,400,000	(補委) 日本学術振興会
無症候性頸動脈狭窄症における認知機能障害の治療効果に関する前向き研究	桑山 直也	脳神経外科学	¥300,000	(補委) 日本学術振興会
統合失調症による全身麻酔修飾機序の解明 -海馬/扁桃体における脳科学的研究-	廣田 弘毅	麻酔科学	¥800,000	(補委) 日本学術振興会
体内時計である睡眠中枢の機能改善により神経障害性疼痛は軽快するか	山崎 光章	麻酔科学	¥1,200,000	(補委) 日本学術振興会
ストレスが子宮内膜症の免疫系ならびに病態進展に与える影響についての検討	吉野 修	産科婦人科学	¥1,100,000	(補委) 日本学術振興会
大脳性平衡機能検査確立を目指した複数非侵襲的脳機能検査統合システム構築	將積 日出夫	耳鼻咽喉科頭頸部外科	¥600,000	(補委) 日本学術振興会
免疫抑制性細胞を標的とした口腔癌顎骨浸潤に対する新たな治療戦略の開発	野口 誠	歯科口腔外科学	¥1,300,000	(補委) 日本学術振興会
順応性自動制御換気(ASV)療法でのより安全な心臓リハビリテーションモデルの構築	城宝 秀司	内科学(二)	¥600,000	(補委) 日本学術振興会
一次繊毛に発現するPDGF受容体の神経幹細胞と神経細胞新生における役割の解明	石井 陽子	病態・病理学	¥1,300,000	(補委) 日本学術振興会
蛍光相関分光法による炎症関連転写因子活性定量プロファイル解析の臨床検査への展開	北島 勲	臨床分子病態検査学	¥1,300,000	(補委) 日本学術振興会
検体中の生菌数を感染症重症度や治療効果の新たな指標とする検査技術の開発	仁井見英樹	臨床分子病態検査学	¥1,200,000	(補委) 日本学術振興会
希少糖を用いた糖尿病の新しい治療戦略	稲寺 秀邦	公衆衛生学	¥1,500,000	(補委) 日本学術振興会
NSAIDs小腸潰瘍の初期病変に関連する標的分子TRPイオンチャンネル	杉山 敏郎	内科学(三)	¥800,000	(補委) 日本学術振興会

アケアホリン2で選定したレスポナーにおけるトルバブタン長期投与の有効性の検討	絹川 弘一郎	内科学(二)	¥700,000	(補委)	日本学術振興会
心房細動の発症におけるp53-miR34a-SIRT1フィードバック回路の役割	西田 邦洋	第二内科	¥1,000,000	(補委)	日本学術振興会
視神経脊髄炎(NMO)の新規酢酸PETの利用と層別化解析による個別化医療の確立	中辻 裕司	神経内科	¥1,000,000	(補委)	日本学術振興会
関節炎モデルマウスにおけるCD206陽性M2マクロファージの役割の検討	篠田 晃一郎	内科学(一)	¥1,200,000	(補委)	日本学術振興会
川崎病血管炎の解明ー血管微小粒子(EMPs)に焦点を当ててー	廣野 恵一	小児科学	¥1,000,000	(補委)	日本学術振興会
プロフィラグリンN末領域による細胞死の分子機構の解明と皮膚癌治療への展開	牧野 輝彦	皮膚科学	¥1,200,000	(補委)	日本学術振興会
D-DTとMIFの生物学的機能の解明と光老化予防および光発癌新規治療への展開	清水 忠道	皮膚科学	¥1,500,000	(補委)	日本学術振興会
食道癌幹細胞マーカーを用いた血中癌細胞分離に基づく新規診断・治療標的の探索	奥村 知之	第二外科	¥1,100,000	(補委)	日本学術振興会
新規樹立食道神経内分泌癌細胞株を用いた治療標的分子の探索	小島 博文	第二外科	¥1,100,000	(補委)	日本学術振興会
尿路上皮癌に対する新規化学免疫療法の確立	北村 寛	腎泌尿器科学	¥1,200,000	(補委)	日本学術振興会
切迫早産例に対する最適な抗菌薬の投与が新生児予後を改善させるか否かに関する研究	米田 哲	産科婦人科	¥1,300,000	(補委)	日本学術振興会
膝がんの浸潤過程に関わるInterleukin-32の役割とその発現機構の解明	井村 穰二	病理診断学	¥1,900,000	(補委)	日本学術振興会
多数重症患者発生時の緊急医療情報管理システムの構築に関する研究	種市 尋宙	小児科学	¥700,000	(補委)	日本学術振興会
CD206陽性マクロファージが肥満に合併する肝腫瘍に与える経時的影響とその機序	薄井 勲	第一内科	¥2,600,000	(補委)	日本学術振興会
心筋緻密化障害の病態解明-胎児発症例に焦点を当てて-	小澤 綾佳	周産母子センター	¥1,800,000	(補委)	日本学術振興会
統合失調症と精神病発症リスク状態に対する ω 3不飽和脂肪酸の効果と予後に及ぼす影響	樋口 悠子	神経精神科	¥1,400,000	(補委)	日本学術振興会
iPS因子(KLF4)に着目した胃癌治療効果予測	橋本 伊佐也	第二外科	¥1,400,000	(補委)	日本学術振興会
三次元(3D)マッピングと細胞波(ρ 波)周波数解析を用いた心房細動手術法の開発	深原 一晃	外科学(1)	¥1,900,000	(補委)	日本学術振興会
脾臓を標的とした脳虚血性疾患の創薬	柏崎 大奈	脳神経外科学	¥1,400,000	(補委)	日本学術振興会
脊柱靭帯骨化症患者における骨代謝動態の解析	川口 善治	整形外科	¥1,300,000	(補委)	日本学術振興会
脊椎椎間板変性制御および再生による治療法の確立	関 庄二	整形外科	¥1,400,000	(補委)	日本学術振興会
羊膜由来細胞外基質コートPLGA担体の生物学的活性効果の検証と軟骨再生治療の応用	野上 真紀子	整形外科	¥1,800,000	(補委)	日本学術振興会
妊娠高血圧腎症におけるオートファジーによる病因解明、新規治療法開発に向けた研究	中島 彰俊	産科婦人科	¥1,700,000	(補委)	日本学術振興会
高齢マウス口腔癌モデルを用いたミエロイド系抑制性細胞の治療標的化に関する研究	富原 圭	歯科口腔外科	¥1,200,000	(補委)	日本学術振興会
情動の臨界期? ;幼若期のストレス経験が外側手綱核の構造と機能に及ぼす影響の研究	一條 裕之	解剖学	¥1,000,000	(補委)	日本学術振興会
メタゲノム解析による切迫早産例、子宮内膜症例における腔内ならびに腸内細菌叢の解析	齋藤 滋	産科婦人科	¥600,000	(補委)	日本学術振興会
軟骨再生戦略のための軟骨最表層細胞lineageと運命の解明	木村 友厚	整形外科	¥1,400,000	(補委)	日本学術振興会
全身炎症反応症候群に対するアスタキサンチンの効果に対する研究	武部 真理子	麻酔科	¥700,000	(補委)	日本学術振興会
消化管上皮の内腔圧受容とATP放出機構の解明	三原 弘	医師キャリアパス創造センター	¥700,000	(補委)	日本学術振興会

オートファジーに着目したH.pyloriによる胃がん発生メカニズムの解明	南條 宗八	内科学(三)	¥1,400,000	補委	日本学術振興会
胃神経内分泌癌の発生原因となる遺伝子異常の同定	安藤 孝将	内科学(三)	¥1,400,000	補委	日本学術振興会
新規fused-S100蛋白質Trichohyarin like 1の機能解析	三澤 恵	皮膚科	¥800,000	補委	日本学術振興会
D-DTおよびMIFを標的とした新規メラノーマ治療法の開発	吉久 陽子	皮膚科学	¥1,500,000	補委	日本学術振興会
糖尿病による全身麻酔薬の修飾作用の解明および安全な麻酔法の確立	本田 康子	麻酔科	¥800,000	補委	日本学術振興会
ofMRIで痛み伝達の脳内ネットワークと先行鎮痛による慢性痛予防の可能性を探る	竹村 佳記	麻酔科学	¥900,000	補委	日本学術振興会
早産の病態解明—羊水中病原微生物の迅速高感度検出システムの利用—	米田 徳子	産科婦人科	¥1,500,000	補委	日本学術振興会
慢性痛が睡眠・覚醒リズムに影響を与える神経科学的メカニズムの解明と治療法開発	伊東 久勝	麻酔科	¥1,400,000	補委	日本学術振興会
眼瞼脂腺がん治療の新規ターゲット遺伝子の解明	柚木 達也	眼科	¥700,000	補委	日本学術振興会
口腔癌担癌宿主における化学療法を用いた免疫抑制細胞集団の治療標的化	今上 修一	歯科口腔外科	¥1,200,000	補委	日本学術振興会
PDGF受容体機能から見た癌感連線維芽細胞の運動制御機構の解明	山田 浩太	歯科口腔外科	¥1,000,000	補委	日本学術振興会
患児由来羊膜の口唇口蓋裂治療への応用	津野 宏彰	歯科口腔外科	¥1,200,000	補委	日本学術振興会
変異酵素の構造安定化剤として機能するイミノ糖型シャペロンの設計と合成	加藤 敦	薬剤部	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
結核菌細胞壁の構築阻害を特徴とする新規イミノ糖型治療薬のデザイン合成研究	足立 伊左雄	薬剤部	¥1,300,000	補委	日本学術振興会
効率的な生薬成分抽出法の開発とヒアルロン酸分解酵素阻害剤の探索	友原 啓介	薬剤部	¥700,000	補委	日本学術振興会
HTLV-1疫学研究及び検査法の標準化に関する研究	齋藤 滋	産科婦人科学	¥1,000,000	補委	日本医療研究開発機構
ヒトサイトメガロウイルスDISCワクチンの探索	白木 公康	ウイルス学	¥16,603,516	補委	日本医療研究開発機構
不育症の原因解明、予防治療に関する研究	齋藤 滋	産科婦人科学	¥21,344,616	補委	日本医療研究開発機構
ω3系脂肪酸によるうつ病の予防・治療を目指した基礎・臨床の融合的研究	浜崎 景	公衆衛生学	¥500,000	補委	国立精神・神経医療研究センター
高精度エピゲノム胃がんリスク診断の確立と多層的食道がんリスク診断の開発	杉山 敏郎	内科学(三)	¥1,642,858	補委	国立がん研究センター
配偶子の機能低下における診断・創薬基盤の確立	吉野 修	産科婦人科学	¥400,000	補委	国立がん研究センター
妊娠高血圧症候群予測及び早期発見のための研究	齋藤 滋	産科婦人科学	¥1,000,000	補委	国立がん研究センター
新たな起炎菌迅速同定・定量技術を基盤とし、菌数を敗血症の新規バイオマーカーとする検査システムの開発	仁井見 英樹	臨床分子病態検査学	¥15,385,000	補委	日本医療研究開発機構
発汗計を搭載した世界初のウェアラブル型熱中症予兆チェッカーの開発	西条 寿夫	システム情動科学	¥3,983,520	補委	富山県新世紀産業機構
角質層内セラミドの増加作用を有する合成カエデタンニンの低コスト大量生産技術の開発	加藤 敦	薬剤部	¥10,989,864	補委	かがわ産業支援財団

計 79

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	筆頭著者の 特定機能病院における所属	題名	雑誌名・ 出版年月等	論文種別
1	Takikawa A, Usui I.	第一内科	Deletion of SIRT1 in myeloid cells impairs	Diabetol Int. 2016 Mar 7; 7(1): 59-68.	Original Article
2	Inomata M, Havashi R.	第一内科	Elevated levels of plasma lactate	Mol Clin Oncol. 2016 May; 4(5): 774-8.	Original Article
3	Inomata M, Shimokawa K.	第一内科	Appetite Loss as an Adverse Effect	Anticancer Res. 2016 Sep; 36(9): 4951-4.	Original Article
4	Fujisaka S, Ussar S.	第一内科	Antibiotic effects on gut microbiota and	J Clin Invest. 2016 Oct 24; 126(12): 4430-43.	Original Article
5	Kamura Y, Iwata M.	第一内科	F1O gene polymorphism is	PLoS One. 2016 Nov 7; 11(11): e0165523.	Original Article
6	Takikawa A, Mahmood A.	第一内科	HIF-1 α in Myeloid Cells Promotes	Diabetes. 2016 Dec; 65(12): 3649-59.	Original Article
7	Fujisaka S, Usui I, Nawaz Joho S,	第一内科	M2 macrophages in metabolism.	Diabetes Int. 2016 Dec; 7(4): 342-51.	Review
8	Akabane T, Nakatani Y,	第二内科	Sympathetic nerve activity efferent drive	Circ J. 2016 Sep 23; 80(10): 2149-54.	Original Article
9	Nakatani Y, Mizumaki K.	第二内科	Differentiation of Slow-slow form of	Pacing Clin Electrophysiol. 2016 Mar;	Original Article
10	Nakatani Y, Sakamoto T.	第二内科	Coefficient of variation of P-wave	J Cardiovasc Electrophysiol. 2016 May;	Original Article
11	Yamaguchi Y, Mizumaki K.	第二内科	Abnormal repolarization	J Electrocardiol. 2016 Jan-Feb; 49(1): 94-8.	Original Article
12	Kajiura S, Hosokawa A.	第三内科	Phase I Study of Docetaxel Plus	Am J Clin Oncol. 2016 Feb; 39(1): 13-7.	Original Article
13	Mihara H, Suzuki N.	第三内科	Transient receptor potential vanilloid 4-	World J Gastroenterol. 2016 Jun 28; 22(24):	Original Article
14	Arita K, Murakami I.	第三内科	Changes in the autoantibody pattern	Bone Marrow Transplant. 2016 Jun; 51(6): 883-4.	Original Article
15	Tajiri K, Baba H.	第三内科	Neutrophil-to- lymphocyte ratio	J Gastroenterol Hepatol. 2016 Jul; 31(7): 1291-9.	Original Article
16	Kajiura S, Hosokawa A.	第三内科	A case of a gastrointestinal	Nihon Shokakibyō Gakkai Zasshi. 2016 Apr; 113(4):	Case report
17	Hosokawa A, Nishikawa I.	第三内科	Chemotherapy- induced Small Bowel	Intern Med. 2016 Apr; 55(8): 1023.	Case report
18	Takagi H, Ando T.	第三内科	A Case of Advanced Gastric Cancer with	Gan To Kagaku Ryoho. 2016 Sep; 43(9): 1117-9.	Case report
19	Yoshihisa Y, Rehman MU.	皮膚科	Role of macrophage migration inhibitory	FASEB J. 2016; 30: 3870-7.	Original Article
20	Mizawa M, Makino T.	皮膚科	Incomplete erythropoietic	Br J Dermatol. 2016; 174(1): 172-5.	Original Article
21	Mizawa M, Makino T.	皮膚科	Jumihaidokuto (Shi- Wei-Ba-Du-Tang), a	Dermatol Res Pract. 2016; 2016: 4060673.	Original Article
22	Makino T, Mizawa M.	皮膚科	The expression profile of filaggrin-2	Arch Dermatol Res. 2016; 308: 213-7.	Original Article
23	Makino T, Mizawa M.	皮膚科	Decreased filaggrin-2 expression in the	Clin Exp Dermatol. 2016; 41: 215-7.	Original Article
24	Yoshihisa Y, Andoh T.	皮膚科	Efficacy of astaxanthin for the	PLoS One. 2016; 11: e0152288.	Original Article
25	Makino T, Shimizu K.	皮膚科	A novel deletion mutation of the	Eur J Dermatol. 2016; 26: 414-6.	Case report
26	Hara H, Makino T.	皮膚科	Annular pustular psoriasis associated	Eur J Dermatol. 2016; 26: 104-5.	Case report
27	Makino T, Hara H.	皮膚科	Hodgkin's lymphoma presenting as	J Dermatol. 2016; 43: 1244-6.	Case report
28	Sugita Y, Makino T.	皮膚科	Mugwort-mustard allergy syndrome due	Case Rep Dermatol Med. 2016; 2016: 8413767.	Case report
29	Hirono K, Hata Y.	小児科	Anomalous origin of the right coronary	J Cardiol. 2016 Sep; 68(3): 196-201.	Original Article
30	Nishikawa Y, Takahashi T.	神経精神科	Orbitofrontal sulcogyral pattern	Eur Arch Psychiatry Clin Neurosci. 2016 Feb;	Original Article
31	Takahashi T, Nakamura M.	神経精神科	Decreased number of orbital sulci in	Psychiatry Res. 2016 Apr; 250: 29-32.	Original Article
32	Takahashi T, Nishikawa Y.	神経精神科	Olfactory sulcus morphology in	Psychiatry Res. 2016 Sep; 255: 60-5.	Original Article

33	Doi T, Gvoten T.	第一外科	Isolated Pulmonary Valve Endocarditis in	Report of a Case. Kyobu Geka. 2016 Jul; 69(7):	Case report
34	Doi T, Sakata K, Gvoten T	第一外科	Two-Stage Hybrid Repair in a Patient	Ann Vasc Dis. 2016; 9(3): 223-7.	Case report
35	Doi T, Gvoten T.	第一外科	On-Pump Beating Heart	Ann Vasc Dis. 2016; 9(1): 51-4.	Case report
36	Nagata I, Win N, Xiao	第二外科	Anti-cancer effect of <i>Saxifraga stolonifera</i>	Clin Exp Pharmacol. 2016; 1-6. doi: 10.4172/2161-	Original Article
37	Nagata I, Fujiino Y.	第二外科	Anti-cancer effect in volatile components	Clin Exp Pharmacol. 2016; 1-5. Doi:	Original Article
38	Nagata T, Toume K.	第二外科	Anticancer effect of a Kampo preparation	J Nat Med. 2016; 70: 627-33. doi: 10.1007/s11418-	Original Article
39	Nagata T, Shimada K.	第二外科	KLF4 improve prognosis of triple-	Breast Can Curr Res. 2016; 1: 3. Doi:	Original Article
40	Okumura T, Kojima H.	第二外科	Loss of Tricho-Rhino-Phalangeal	Int J Cancer Res Mol Mech. 2016; 2(2). Doi:	Original Article
41	Okumura T, Kojima H.	第二外科	The expression of microRNA 574-3p as	World J Surg Oncol. 2016 Aug 26; 14(1): 228. doi:	Original Article
42	Sekine S, Nagata T.	第二外科	The Usefulness of Nutritional Index	Int J Cancer Clin Res. 2016; 3: 041.	Original Article
43	Sekine S, Okumura T.	第二外科	Expression Analysis of Aquaporin-1	J Cancer Ther. 2016; 7: 17-23.	Original Article
44	Nagata I, Demizu Y.	第二外科	Carbon ion radiotherapy for	World J Surg Oncol. 2016; 14: 245. doi:	Case report
45	Nagata T, Sekine S.	第二外科	Hyperviscosity syndrome due to	Austin Therapeutics. 2016; 3(2): 1028.	Case report
46	Yamamoto S, Koh M.	脳神経外科	Is quasi-moyamoya disease a uniform	J Stroke Cerebrovasc Dis. 2016 Jun; 25(6): 1509-16.	Original Article
47	Kashiwazaki D, Akioka N.	脳神経外科	Involvement of circulating	J Neurosurg. 2016 Dec; 125(6): 1549-56.	Original Article
48	Yamamoto S, Akioka N.	脳神経外科	Moyamoya disease emerged with corpus	NMC Case Report Journal. 2016 Jul; 3(3): 85-9.	Case report
49	Matsushita I, Motomura H.	整形外科	Radiographic changes and factors	Mod Rheumatol. 2016; 26: 1-6.	Original Article
50	Kawaguchi Y, Nakano M.	整形外科	Characteristics of ossification of the	J Orthop Sci. 2016; (21): 439-45.	Original Article
51	Seki S, Kawaguchi Y.	整形外科	Rod rotation and differential rod	Spine J. 2016; 16(3): 365-71.	Original Article
52	Nogami M, Kimura T.	整形外科	A Human Amnion-Derived Extracellular	Tissue Eng Part A. 2016; 22(7-8): 680-8.	Original Article
53	Makino H, Seki S.	整形外科	A novel nerve root anomaly with	J Orthop Sci. 2016; 21(5): 698-701.	Original Article
54	Suzuki K, Yasuda T.	整形外科	Association between intraosseous	Oncol Lett. 2016; 11(5): 3185-8.	Case report
55	Saito S, Nakabayashi	産科婦人科	A new era in reproductive	Semin Immunol. 2016; 38: 687-97.	Original Article
56	Yoneda S, Shiozaki A.	産科婦人科	Antibiotic therapy increases the risk of	Am J Reprod Immunol. 2016; 75(4): 440-50.	Original Article
57	Yoneda N, Yoneda S.	産科婦人科	Polymicrobial Amniotic Fluid	Am J Reprod Immunol. 2016; 75(2): 112-25.	Original Article
58	Tojo N, Havashi A.	眼科	Fluctuations of the Intraocular Pressure	J Glaucoma. 2016 May; 25(5): 463-8.	Original Article
59	Yunoki T, Tabuchi Y.	眼科	Gene network analysis of genes	Int J Mol Med. 2016 Jul; 38(1): 236-42.	Original Article
60	Tojo N, Abe S, Mivakoshi	眼科	Correlation between short-term and long-	Clin Ophthalmol. 2016 Sep 2; 10: 1713-7.	Original Article
61	Nakamura T, Ueda-	眼科	Correlation between outer retinal layer	Graefes Arch Clin Exp Ophthalmol. 2016 Dec;	Original Article
62	Yunoki T, Nakamura Y.	眼科	Reconstructive Surgery of the Upper	Ophthalmology. 2016 Jul; 308-14.	Case report
63	Shojaku H, Noguchi K.	耳鼻咽喉科	CT Findings of Axillary Tuberculosis	Case Rep Radiol. 2016; 2016: 9016517: 1-5.	Case report
64	Kitamura H, Takahashi A.	泌尿器科	Molecular-targeted therapy and surgery	Anticancer Res. 2016; 36(10): 5531-6.	Original Article
65	Hattori M, Yamazaki M.	麻酔科	Critical role of endogenous histamine	Intensive Care Med Exp. 2016 Nov; 4: 36. DOI:	Original Article
66	Tomihara K, Miwa S.	歯科口腔外科	Invasive microcapillary	Oral Surg Oral Med Oral Pathol Oral Radiol. 2016	Case report
67	Fuse H, Tomihara K.	歯科口腔外科	Enhanced expression of PD-L1 in oral	Oral Oncol. 2016 Aug; 59: 20-9.	Original Article
68	Watari H, Shimada Y.	和漢診療科	Cytosolic aspartate aminotransferase, a	Tradit Kampo Med. 2016; 3(1): 41-9.	Original Article
69	Okudera H, Takahashi M.	災害・救命センター	Concept of neuroresuscitation in	F1000Res. 2016; 5: 1602.	Original Article
70	Okudera H, Sakamoto M.	災害・救命センター	Development of new EEG monitoring head	F1000Res. 2016; 5: 1603.	Original Article

71	Takahashi C, Okudera H.	災害・救命センター	Evaluation of the accuracy of the Phase I Study of Docetaxel Plus	Am J Emerg Med. 2016; 34: 100-1.	Original Article
72	Kajiura S, Hosokawa A.	臨床腫瘍部	A case of a gastrointestinal Wireless EEG monitoring system for Emergo Train System for health	Am J Clin Oncol. 2016 Feb; 39(1): 13-7.	Original Article
73	Kajiura S, Hosokawa A.	臨床腫瘍部	Clinical features of patients who died	Nihon Shokakibyō Gakkai Zasshi. 2016 Apr; 113(4): Cerebrovasc Dis. 2016; 41(suppl 1): 27.	Case report
74	Sakamoto M, Okudera H.	災害・救命センター	MicroRNA-93 may control vascular	J Clin Sim Res. 2015; 6(1): 39-40. (2015年未掲載分)	Original Article
75	Sakamoto M, Okudera H.	災害・救命センター	The Number of pain Sites and Other Non-Clubbing in an Anorexia Nervosa	J Inter Med Res. 2016; 0(0): 1-13.	Original Article
76	Saito K, Nakaoka H.	周産母子センター	Docking study and biological evaluation	Pediatr Res. 2016 Sep; 80(3): 425-32.	Original Article
77	Kita K, Nagatsuma	総合診療部	Direct chemical derivatization of	J Gen Fam Med. 2016 Jun; 17(2): 151-7.	Original Article
78	Kita K, Wakakuri A.	総合診療部	Interpreting the behavior of	Intern Med. 2016 Mar; 55: 3411-2.	Case report
79	Kato A, Nakagome I.	薬剤部	Asymmetric Synthesis of Multisubstituted	Org Biomol Chem. 2016 Jan 21; 14(3): 1039-48.	Original Article
80	Tomohara K, Ito T.	薬剤部		Tetrahedron Lett. 2016 Feb 24; 57(8): 924-7.	Original Article
81	Tomohara K, Ito T.	薬剤部		Bioorg Med Chem Lett. 2016 Jul 1; 26(13): 3153-5.	Original Article
82	Tomohara K, Kasamatsu K.	薬剤部		Chem Pharm Bull (Tokyo). 2016 Jul 1; 64(7): 899-900.	Original Article
~					

計 83件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名・出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report, Review, Letter, Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	筆頭著者の特定機能病院における所属	題名	雑誌名・出版年月等	論文種別
1					Original Article
2					Case report
3					
~					

計 件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 富山大学医の倫理に関する規則 1 目的及び設置 2 所掌事項 3 組織 4 委員長 5 議事等 6 課題審査 7 申請手続及び判定の通知 8 異議申立手続及び判定の通知 9 研究等実施計画 の変更 10 専門委員会 等	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年 1 1 回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。
2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 富山大学利益相反マネジメント規則－臨床研究部会 1 臨床研究部会 2 所掌事項 3 組織 4 部会長 5 議事 6 意見聴取等	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年 1 回

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年 1 1 回
・ 研修の主な内容 ・ 2016年度 第1回～第10回 富山大学研究倫理講習会「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針と研究申請書について」 ・ 臨床研究管理センター研究倫理講演会「これからの医学系研究に求められるもの」	

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

別紙 1 「平成 28 年度 プログラム参加医師名簿」を参照。

(注) 上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

上記研修を受けた医師数	128人
-------------	------

(注) 前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
猪又 峰彦	第一内科	呼吸器内科副科長	15年	呼吸器内科
峯村 正実	第三内科	消化器内科副科長	31年	消化器内科
平井 忠和	第二内科	循環器内科副科長	32年	循環器内科
小池 勤	第二内科	第二内科病棟医長	21年	腎臓内科
田口 芳治	神経内科	神経内科副科長	22年	神経内科
村上 純	第三内科	血液内科副科長	26年	血液内科
薄井 勲	第一内科	代謝・内分泌内科副科長	26年	内分泌内科
岩田 実	第一内科	保健管理センター(杉谷支所) 准教授	25年	代謝内科
山本 善裕	感染症科	感染予防医学教授	26年	感染症内科
松井 祥子	第一内科	保健管理センター長・教授	33年	アレルギー疾患内科 又はアレルギー科
篠田 晃一郎	第一内科	免疫・膠原病内科副科長	21年	リウマチ科
本間 崇浩	第一外科	呼吸器一般外科副科長	13年	呼吸器外科
奥村 知之	第二外科	消化器外科副科長	22年	消化器外科
長田 拓哉	第二外科	乳腺内分泌外科長	26年	乳腺外科
深原 一晃	第一外科	心臓血管外科副科長	26年	心臓血管外科
長田 拓哉	第二外科	乳腺内分泌外科長	26年	内分泌外科
廣川 慎一郎	第二外科	小児外科長	35年	小児外科
高橋 努	神経精神科	神経精神科副科長	21年	精神科
川口 善治	整形外科	整形外科副科長	29年	整形外科

永井 正一	脳神経外科	脳神経外科副科長	25年	脳神経外科
吉野 修	産科婦人科	産科婦人科副科長	20年	産婦人科
柳澤 秀一郎	眼科	眼科副科長	22年	眼科
藤坂 実千郎	耳鼻咽喉科	耳鼻咽喉科副科長	27年	耳鼻咽喉科
富澤 岳人	放射線科	放射線科医局長	22年	放射線科
廣田 弘毅	麻酔科	麻酔科副科長	32年	麻酔科
若杉 雅浩	救急科	危機管理医学・医療安全学准教授， 救急科長	24年	救急科
富原 圭	歯科口腔外科	歯科口腔外科副科長	16年	歯科口腔外科
牧野 輝彦	皮膚科	皮膚科副科長	21年	皮膚科
野村 恵子	小児科	小児総合内科副科長	26年	小児総合内科
廣野 恵一	小児科	小児循環器内科副科長	19年	小児循環器内科
田中 朋美	小児科	小児発達神経科副科長	15年	小児発達神経科
藤内 靖喜	泌尿器科	泌尿器科副科長	26年	泌尿器科
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	
			年	

- (注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。
- (注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。
- (注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

・研修の主な内容

がん診療に携わる医師・コメディカルの緩和ケアについて、基本的な知識を習得することの継続性を確保し、治療の初期段階からの緩和ケアの提供が継続して行われるように研修するために、ファシリテーター等の指導のもと、参加者が、模擬の医師や家族の役を担当し、緩和ケアフォローアップを疑似体験し、緩和ケアの対応を習得する。

・研修の期間・実施回数

平成 29 年 1 月 28 日（土）9：00～17：40・1 回

・研修の参加人数

13 名

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

1) ・研修の主な内容

新人病院職員研修（全職員対象分）として「保険診療と D P C」と題して講義形式の研修を実施し、保険医療機関及び D P C 対象病院として大学病院の使命等を認識する。

・研修の時間・実施回数

平成 28 年 4 月 4 日（月）13：00～13：30

・研修の参加人数

71 名

2) ・研修の主な内容

職員病院研修（全職員対象分）として「D P C 制度に関する研修会」と題して講義形式の研修を実施し、保険医療機関及び D P C 対象病院として大学病院の使命等を認識する。

・研修の時間・実施回数

平成28年10月13日（木）17:00～18:00

・研修の参加人数

127名

3)・研修の主な内容

保険診療にかかる研修会として、「2018年度医療・介護同時改定に向けた厚生労働省の動向とその対策」と題し、講義を受講することにより、保険診療に対する理解を深めることを目的とする。

・研修の期間・実施回数

平成28年12月 5日（月）18:00～19:00

平成28年12月13日（火）14:00～15:00（ビデオ講習）

15:30～16:30（ビデオ講習）

・研修の参加人数

165人

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

・研修の主な内容

・研修の期間・実施回数

・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2). 現状
管理責任者氏名	齋藤 滋
管理担当者氏名	副病院長 (診療担当) 黒田敏、薬剤部長 足立伊佐雄、医事課長 西野伸一、放射線部長 野口京、看護部長 米道智子、病院総務課長 福島健太郎

		保管場所	管理方法	
診療に関する諸記録	規則第二十一条の三第二項に掲げる事項	病院日誌	病院総務課	
		各科診療日誌	看護部	
		処方せん	薬剤部	
		手術記録	医事課	
		看護記録	看護部	
		検査所見記録	医療情報部	
		エックス線写真	放射線部	
		紹介状 退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	医事課	
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十一条の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	医薬系総務課人事・職員支援チーム	
		高度の医療の提供の実績	医事課	
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	病院総務課	
		高度の医療の研修の実績	病院総務課臨床研修チーム	
		閲覧実績	病院総務課	
		紹介患者に対する医療提供の実績	医事課	
	掲げる事項	規則第一条の十一第一項に掲げる事項	入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	医事課、薬剤部
			医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医事課医療安全
			医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医事課医療安全
			医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医事課医療安全
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医事課医療安全	

			保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項	院内感染対策のための指針の策定状況	医事課医療安全	
		院内感染対策のための委員会の開催状況	医事課医療安全	
		従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医事課医療安全	
		感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医事課医療安全	
		医薬品安全管理責任者の配置状況	医事課医療安全	
		従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	医事課医療安全	
		医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	医事課医療安全	
		医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医事課医療安全	
		医療機器安全管理責任者の配置状況	医事課医療安全	
		従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	医事課医療安全	
		医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	医事課医療安全	
		医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	医事課医療安全	

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医事課医療安全
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医事課医療安全
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医事課医療安全
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	医事課医療安全
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	医事課医療安全
		医療安全管理部門の設置状況	医事課医療安全
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	医事課医療安全
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	医事課医療安全
		監査委員会の設置状況	医事課医療安全
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医事課医療安全
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医事課医療安全
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医事課医療安全
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医事課医療安全
		職員研修の実施状況	医事課医療安全
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	医事課医療安全		

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	②. 現状
閲覧責任者氏名	病院事務部病院総務課長 福島 健太郎	
閲覧担当者氏名	病院事務部病院総務課課長補佐 細谷 晃	
閲覧の求めに応じる場所	病院事務部病院総務課	
閲覧の手続の概要 原則として、提供先における利用目的、利用する業務の根拠法令、利用する記録範囲及び記録項目、利用形態等について書面を取り交わす。また、安全確保の措置を要求するとともに、必要があると認めるときは、提供前又は随時に実地の調査等を行い措置状況を確認し、その結果を記録するとともに、改善要求等を講ずる。		

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	1件
閲覧者別	医師	延 0件
	歯科医師	延 0件
	国	延 0件
	地方公共団体	延 0件

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

注) 延べ1件の内訳は個人。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有 無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 病院における安全管理に関する基本的考え方2. 医療安全の組織と体制に関する基本事項3. 安全管理に係る研修に関する基本方針4. 医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針5. 医療事故等発生時の対応に関する基本方針6. 医療従事者と患者等との間の情報の共有に関する基本方針7. 患者等からの相談への対応に関する基本方針8. その他医療安全の推進のための必要な基本方針	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無 (有・無)</p> <p>・ 開催状況：年 12 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 病院において重大な問題その他委員会において取り扱うことが適当な問題が発生した場合における速やかな原因の究明のための調査及び分析に関すること。2. 1号の分析の結果を活用した医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の立案及び実施並びに病院職員への周知に関すること。3. 1号の改善のための方策の実施の状況の調査及び必要に応じた当該方策の見直しに関すること。4. 入院患者が死亡した場合における当該死亡の事実及び死亡前の状況に関する医療安全管理室への報告の実施の状況の確認及び確認結果の病院長への報告に関すること。5. 入院患者の死亡以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして病院長が定める水準以上の事象が発生したときにおける当該事象の発生の実事及び発生前の状況の医療安全管理室への報告の実施の状況に関する確認及び確認結果の病院長への報告に関すること。6. 4.5号に規定する実施の状況が不十分な場合における適切な報告のための病院職員へ研修及び指導に関すること。7. その他医療安全管理、医療の質の向上及び医療事故に関すること。	
③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 5 回
<p>・ 研修の主な内容：全職員の他、新規採用・中途採用の職員（医師、看護師、コ・メディカル職員及び事務職員）及び外部委託業者を対象に医療安全のための研修を計画し、実施している。</p>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>○認知症患者等が出入り口から屋外に出て戻れなくなった事例や、車椅子自走患者が単独で屋外において車いすから転落し、発見および救助までに時間を要</p>	

した事例を踏まえ、院内の出入り口における開錠時間を変更した。また、当院の立地上、坂が多い状況を踏まえ、車椅子患者用の注意喚起ポスターを出入り口等に掲示した。

また、セーフティマネージャー会議等で、インシデント事例を共有し、再発防止策として、①患者の状態を多職種でアセスメントし、適切な対策をとると同時に、その情報を共有すること、②人通りの少ない時間帯に患者が屋外に出ることのないよう出入り口の開場時間を変更したこと、③車椅子自走患者については、入院時に注意を促すことについて説明した。

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 病院における感染対策に関する基本的な考えかた2. 感染対策の組織と体制に関する基本的事項3. 感染対策に係る研修に関する基本方針4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針5. 病院感染発生時の対応に関する基本方針6. 患者等に対する指針の閲覧に関する基本方針7. その他感染対策の推進のために必要な基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 感染予防対策の確立に関すること。2. 感染予防の実施、監視及び指導に関すること。3. 感染予防の啓発及び教育に関すること。4. 感染に係る事故等の疫学調査及び事後措置に関すること。5. 感染予防対策の評価及び改善に関すること。6. 感染予防対策に係る情報の収集に関すること。7. その他感染予防に関すること。	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 3 回
<p>・ 研修の主な内容：全職員の他、新規採用・中途採用の職員（医師、看護師、コ・メディカル及び事務職員）及び外部委託業者を対象に感染予防対策のための研修を計画し実施している。</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">○手指衛生遵守率向上を目的に、各部署の手指消毒使用量データをフィードバックし、リンクナースとともに各部署で教育・啓発した。○針刺し事故防止対策として、全看護師を対象にペン型インスリンの針とリムーバーを用いたトレーニングを実施した。○外来における感染症トリアージの手順の変更し、マニュアルの改訂を行った。○薬剤部・リハビリテーション部などの環境整備・手指衛生の遵守を推進した。○自動尿量測定器使用による院内感染のリスクを考慮し、廃止に向けて使用率を調査した。次年度には、50%削減の目標を計画した。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 2 号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 2 回
・ 研修の主な内容： ○医薬品の有効性・安全性に関する情報，使用方法に関する事項 ○医薬品の安全使用のための業務に関する手順書に関する事項 ○医薬品による副作用等が発生した場合の対応（病院内での報告，行政機関への報告等）に関する事項	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
・ 手順書の作成 （有・無） ・ 業務の主な内容： ○医薬品の安全使用のための業務に関する手順書を，医療安全管理委員会の議を経て作成。 ○実施状況を部署責任者の協力を得て定期的に「医薬品業務確認リスト」に基づき確認。 ○確認結果を，医療安全管理委員会の議を経て，病院長に報告。	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 医薬品に係る情報の収集の整備 （有・無） ・ その他の改善のための方策の主な内容： ○薬剤部医薬品情報室の機能を駆使して，医薬品の添付文書の情報のほか，医薬品製造販売業者，行政機関及び学術誌等からの情報を広く収集・管理する。 ○得られた情報のうち必要なものを当該情報に係る医薬品を取り扱う病院従業者に，迅速かつ確実に周知徹底を行った後、全職員に対し情報の周知を行い、確認報告書を記載・提出させる。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	<input checked="" type="radio"/> 有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 62 回
・ 研修の主な内容： <input type="radio"/> 有効性・安全性に関すること <input type="radio"/> 使用方法に関すること <input type="radio"/> 保守点検に関すること <input type="radio"/> 不具合発生への対応に関すること	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
・ 医療機器に係る計画の策定 (<input checked="" type="radio"/> 有・無) ・ 保守点検の主な内容： <input type="radio"/> 日常点検 <input type="radio"/> 使用後点検 <input type="radio"/> 定期点検	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
・ 新規導入の機器や更新機器は、年 1 回、各診療科等に導入希望調査が行われ、年度導入計画書が作成される。その他臨時導入要求も含め、病院執行部会議で審議、病院運営会議で最終決定され、院内に周知されている。 ・ 修理・点検は、検査部、放射線部を除き、全ての修理依頼を医療機器管理センターで対応（検査部及び放射線部については、重要な異常発生時には同センターに連絡が入るようになっている。）しており、医療機器は、同センターが把握するよう努めている。 ・ 使用状況については、院内ラウンド時に把握するよう努めている。	

(注) 前年度の実績を記入すること。

(様式第 6)

規則第 9 条の 23 第 1 項第 1 号から第 15 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	有・無
<p>・責任者の資格（医師） ・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況 ・平成28年7月20日に医療安全管理指針を改正し、医療安全管理責任者を配置した。医療安全管理責任者は、医療安全管理室、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者を統括することを定めた。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	有（7名）・無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>医薬品安全管理責任者から指名された薬剤師等2名が、院内の医薬品の使用状況を月一回程度定期的に確認し、その結果を踏まえ、添付文書情報（禁忌等）、緊急安全性情報、未承認医薬品の使用時又は医薬品の適応外使用等の医薬品安全管理に係る情報を整理し、医薬品安全管理責任者に報告している。医薬品安全管理責任者はその結果について院内全体に周知するとともに、必要な診療科等に周知されているかについて確認することを薬剤師に行わせている。周知状況の確認方法は、各診療科等から提出される全職員が署名した「確認報告書」にて行っている</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>医薬品安全管理責任者から指名された薬剤師が、医師の処方した薬剤の使用が未承認医薬品の使用若しくは適応外又は禁忌等の使用に該当するか否かを把握し、これに該当する場合は、処方した医師に対して処方の必要性や論文等の根拠に基づくリスク検討の有無、処方の妥当性を確認している。その結果を踏まえ、処方した医師等に対し処方の変更等の提案を行い、その結果について医薬品安全管理責任者に報告している。</p> <p>・担当者の指名の有無 有・無</p> <p>・担当者の所属・職種：</p> <p>（所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 ） （所属： ， 職種 ） （所属：薬剤部 ， 職種 薬剤師 ） （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ） （所属： ， 職種 ）</p>	

④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有・無) ・説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ・「富山大学附属病院インフォームド・コンセントに関する要項」に基づき実施している。 ・説明者氏名、患者氏名及び同席者氏名の診療録への記載、質問の回答や患者及び同席者の反応などを、診療録等に記載することについて指導を行っている。 	
⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容： ・患者基本情報として、主訴・現病歴の記載。 ・毎日、医師記録、看護記録が記載されている。 ・入院から退院までの診療内容の要点の適切な記載。 ・手術記録の適切な記載。 ・その他のスキャンされた医療文書についての適切な作成。 	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	有・無
<ul style="list-style-type: none"> ・所属職員：専従（ 3 ）名、専任（ 1 ）名、兼任（ 21 ）名 <ul style="list-style-type: none"> うち医師：専従（ 1 ）名、専任（ 1 ）名、兼任（ 10 ）名 うち薬剤師：専従（ 1 ）名、専任（ 0 ）名、兼任（ 1 ）名 うち看護師：専従（ 2 ）名、専任（ 0 ）名、兼任（ 3 ）名 （注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること ・活動の主な内容： <ol style="list-style-type: none"> 1. 富山大学附属病院医療安全管理委員会（以下「委員会」という。）に係る事務。 2. 事故その他の管理室において取り扱うことが必要なものとして病院長が認める事象が発生した場合における診療録その他の診療に関する記録の確認、患者又はその家族への説明、当該事象の発生の原因の究明の実施その他の対応の状況の確認及び当該確認の結果に基づく従業者への必要な指導。 3. 医療に係る安全管理に係る連絡調整。 4. 医療に係る安全確保のための対策の推進。 5. 医療安全の確保に資する診療状況のモニタリング。（死亡症例に関すること、新規褥瘡に関すること） 6. 全病院職員に対する医療安全に係る教育・研修の立案、実施及び認識状況の確認。 7. 各部署における医療安全対策の実施状況の評価に基づき、医療安全確保のための業務改善計画書を作成し、それに基づく医療安全対策の実施状況及び評価結果の記録。 8. 委員会との連携状況、医療安全に係る職員研修の実績、その他の医療安全管理者の活動実績の記録。 9. 医療安全対策に係る取組の評価等を行うカンファレンスの実施。 10. その他医療の安全管理に関すること。 	

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。
 ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無 (有 ・ 無)
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (有 ・ 無)
- ・活動の主な内容：
 高難度新規医療技術の提供の適否等に関すること。
 高難度新規医療技術が適正に提供されているかどうかを確認すること。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (有 ・ 無)
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無 (有 ・ 無)

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無 (有 ・ 無)
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無 (有 ・ 無)
- ・活動の主な内容：
 未承認新規医薬品等の使用の適否等に関すること。
 未承認新規医薬品等が適正に使用されているかどうかを確認すること。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無 (有 ・ 無)
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無 (有 ・ 無)

⑨ 監査委員会の設置状況 (有 ・ 無)

- ・監査委員会の開催状況：年 1 回 (平成 30 年 1 月頃 2 回目を開催予定)
- ・活動の主な内容：
 医療安全管理責任者、医療安全管理室、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の業務の状況について、附属病院長から報告を求め、又は必要に応じて自ら確認を行う。
 学長又は病院長に対し、必要に応じて医療に係る安全管理についての是正措置を講じるよう意見を

述べること。

○実施結果を公表すること。

・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有・無）（平成 29 年 10 月公表予定）

・ 委員名簿の公表の有無（有・無）

・ 委員の選定理由の公表の有無（有・無）

・ 公表の方法：

○富山大学のホームページにて公表。

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
小坂 健夫	金沢医科大学	○	医療に係る安全管理に関する識見を有する者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
木下 実	木下法律事務所		法律に関する識見を有する者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	1
林 忠子	富山大学附属病院患者会		医療を受ける者	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	2
神田 和明	富山大学		学長が指名した理事（総務・財務担当）	有・ <input checked="" type="radio"/> 無	2
				有・無	
				有・無	

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

⑩ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

- ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 1 件
 - ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 31 件
 - ・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容
- 重大なインシデントに係る調査及び対策に関すること。
- 医療事故対応の意思決定・報告・公報に関すること。

⑪ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

- ・他の特定機能病院等への立入り（有（病院名： ）無）
（信州大学へ 11/10 立ち入り予定）
- ・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（有（病院名： ）無）
（三重大学から 12/7 立ち入り予定）
- ・技術的助言の実施状況

⑫ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況

- ・体制の確保状況
- 医療福祉サポートセンターを設置している。

⑬ 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況

- ・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（有・無）
- ・窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関しする必要な定めの有無（有・無）
- ・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（有・無）

⑭ 職員研修の実施状況

- ・研修の実施状況

○医療法施行規則第1条の11第1項第3号並びに第9条の23第1項第14号に規定する研修を昨年度、今年度ともに行っている。

⑮ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

○管理者、医療機器安全管理責任者について、本年度中に開催される国立大学附属病院長会議等が実施する研修に参加させる予定である。

○医薬品安全管理責任者について、平成29年7月7日開催「平成29年度日本病院薬剤師会医薬品安全管理責任者等講習会」受講済み。

○医療安全管理責任者について、平成29年11月17日開催「特定機能病院安全管理責任者研修」を受講予定。

(注) 前年度の実績を記載すること (⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること)

(様式第 8)

富大病総第 174-1 号
平成 29 年 10 月 4 日

厚生労働大臣

殿

国立大学法人富山大学長
開設者名 遠藤俊郎 (印)

医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1. 管理職員研修（医療に係る安全管理のための研修、管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者向け）を実施するための予定措置

管理者および医療機器安全管理責任者については、国立大学附属病院長会議が実施する管理者研修に参加させる予定である。医療安全管理責任者研修は、平成 29 年 11 月 17 日に受講予定である。医薬品安全管理責任者研修は、平成 29 年 7 月 7 日に受講済。

2. 医療安全管理部門の人員体制

・所属職員：専従（3）名、専任（1）名、兼任（21）名
うち医師：専従（1）名、専任（1）名、兼任（10）名
うち薬剤師：専従（1）名、専任（0）名、兼任（1）名
うち看護師：専従（2）名、専任（0）名、兼任（3）名

3. 医療安全管理部門の専従職員を配置するための予定措置

平成 29 年 4 月に専従の医師 1 名、専従の薬剤師 1 名を配置した。

平成28年度プログラム参加医師名簿

参加年度	診療科名	コース名	医師名	性別	卒後年数	医師免許取得年	所属病院	
1	2012	第一内科	糖尿病トータルケア	角 朝信	男	7年	2010	富山大学附属病院
2	2014	第一内科	呼吸器専門医、基本	田中 宏明	男	7年	2010	富山大学附属病院
3	2012	第一内科	膠原病リウマチトータルケア	小尾 麻衣子	女	7年	2010	富山大学附属病院
4	2012	第一内科	膠原病リウマチトータルケア	山口 智史	男	7年	2010	済生会高岡病院
5	2013	第一内科	膠原病リウマチトータルケア	松井 篤	男	6年	2011	富山大学附属病院
6	2014	第一内科	膠原病リウマチトータルケア	中嶋 歩	女	5年	2012	JCHO東京山手 メディカルセンター
7	2014	第一内科	臓器統合糖尿病大学院(基礎研究) 選択コース	渡辺 善之	男	5年	2012	富山大学附属病院
8	2015	第一内科	関節リウマチトータルケア研修、大学 院コース	木戸 敏喜	男	2年	2013	富山大学附属病院
9	2012	第一内科	呼吸器学会専門医取得コース4 (大学院コース)	下川 一生	男	9年	2008	富山大学附属病院
10	2016	第一内科	リウマチ膠原病専門研修、大学院 コース	浅野 諒子	女	3年	2014	富山大学附属病院
11	2016	第一内科	臓器統合糖尿病大学院(基礎研究) 選択コース	上野 麻子	女	3年	2014	富山大学附属病院
12	2016	第一内科	内分泌代謝統合コース	北野 香織	女	3年	2014	富山大学附属病院
13	2016	第一内科	糖尿病トータルケア	芝 みちる	女	3年	2014	三井記念病院
14	2012	第二内科	循環器総合研修コース	桑原 弘幸	男	7年	2010	富山大学附属病院
15	2012	第二内科	循環器総合研修コース	中垣内 昌樹	男	7年	2010	富山大学附属病院
16	2013	第二内科	循環器総合研修コース	辻野 泰	男	6年	2011	富山大学附属病院
17	2012	第二内科	腎・高血圧専門医育成コース	水谷 南美	女	7年	2010	富山大学附属病院
18	2012	第二内科	腎・高血圧専門医育成コース	藤岡 勇人	男	7年	2010	かみいち総合病院
19	2012	第二内科	虚血・心不全研修コース	小野田 寛	男	7年	2010	富山大学附属病院
20	2012	第二内科	虚血・心不全研修コース	田中 修平	男	7年	2010	富山大学附属病院
21	2015	第二内科	腎・高血圧専門医育成コース	白石 詩織	女	4年	2013	富山市民病院
22	2015	第二内科	腎・高血圧専門医育成コース	安本 幸恵	女	4年	2013	富山県立中央病院
23	2016	第二内科	循環器総合研修コース	上野 陽平	男	3年	2014	富山大学附属病院
24	2016	第二内科	循環器総合研修コース	堀 正和	男	3年	2014	富山大学附属病院
25	2013	第二内科	腎・高血圧専門医育成コース	高嶋英子	女	6年	2011	富山大学附属病院
26	2012	第三内科	消化器総合研究コース	高木 宏明	男	7年	2010	富山大学附属病院
27	2012	第三内科	腫瘍内科医養成コース	油尾 英未	女	8年	2009	北陸病院
28	2013	第三内科	消化器総合研究コース	元尾伊織	男	6年	2011	理化学研究所
29	2013	第三内科	消化器総合研究コース	明石桃子	女	6年	2011	富山大学附属病院
30	2014	第三内科	消化器内視鏡専門医養成コース	高嶋祐介	男	5年	2012	厚生連高岡病院
31	2014	第三内科	消化器総合研究コース	西野 貴晶	男	5年	2012	高岡市民病院
32	2014	第三内科	消化器内視鏡専門医養成コース	小林 才人	男	5年	2012	糸魚川総合病院
33	2014	第三内科	消化器内視鏡専門医養成コース	北林 誠	男	5年	2012	富山大学附属病院

	参加年度	診療科名	コース名	医師名	性別	卒後年数	医師免許取得年	所属病院
34	2015	第三内科	消化器総合研究コース	作村 美穂	女	4年	2013	高岡市民病院
35	2015	第三内科	消化器総合研究コース	島田 清太郎	男	4年	2013	糸魚川総合病院
36	2015	第三内科	消化器総合研究コース	長田 巧平	男	4年	2013	富山赤十字病院
37	2015	第三内科	消化器総合研究コース	二日市 有花	女	4年	2013	済生会富山病院
38	2016	第三内科	消化器総合研究コース	松原 裕樹	男	2年	2014	富山大学附属病院
39	2016	第三内科	消化器総合研究コース	瀧野 真代	女	2年	2014	富山大学附属病院
40	2013	皮膚科	皮膚科専門医皮膚外科コース	関 友里	女	5年	2011	富山大学附属病院
41	2013	皮膚科	皮膚科専門医皮膚外科コース	森 直哉	男	5年	2011	富山大学附属病院
42	2014	皮膚科	皮膚科専門医皮膚外科コース	鹿児島 浩	男	6年	2010	富山大学附属病院
43	2014	皮膚科	皮膚科専門医皮膚外科コース	林 政雄	男	4年	2012	富山大学附属病院
44	2016	皮膚科	皮膚科専門医皮膚外科コース	虎井 僚太郎	男	3年	2014	富山大学附属病院
45	2016	皮膚科	皮膚科専門医皮膚外科コース	古川 史奈	女	3年	2014	富山大学附属病院
46	2014	小児科	小児総合内科医養成コース	牛尾 悠 (旧姓:有沢)	女	4年	2012	厚生連高岡病院
47	2014	小児科	小児総合内科医養成コース	齊藤 悠	男	4年	2012	富山市民病院
48	2014	小児科	小児総合内科医養成コース	寺下 新太郎	男	4年	2012	富山赤十字病院
49	2014	小児科	小児総合内科医養成コース	長岡 貢秀	男	4年	2012	富山県立中央病院
50	2014	小児科	小児総合内科医養成コース	森 こずえ	女	4年	2012	富山大学附属病院
51	2015	小児科	小児総合内科医養成コース	村上 将啓	男	3年	2013	富山赤十字病院
52	2015	小児科	小児総合内科医養成コース	清水 宗之	男	3年	2013	黒部市民病院
53	2015	小児科	小児総合内科医養成コース	寶田 真也	男	3年	2013	糸魚川総合病院
54	2015	小児科	小児総合内科医養成コース	荒井 美穂 (旧姓:川合)	女	3年	2013	黒部市民病院
55	2016	小児科	小児総合内科医養成コース	久保 勝之	男	2年	2014	富山大学附属病院
56	2016	小児科	小児総合内科医養成コース	太田 安孝	男	2年	2014	富山大学附属病院
57	2016	小児科	小児総合内科医養成コース	八木 宏子	女	2年	2014	富山大学附属病院
58	2011	神経精神科	精神保険指定医・精神科専門医を取得する最短3年コース	山口 幸志	男	9年	2008	富山大学附属病院
59	2012	神経精神科	精神保険指定医・精神科専門医を取得する最短3年コース	藤岡 珠美	女	6年	2010	かみいち総合病院
60	2013	神経精神科	学位取得研究コース	中村 美保子	女	5年	2011	富山大学附属病院
61	2012	神経精神科	精神保険指定医・精神科専門医を取得する最短3年コース	嶋 有希子	女	6年	2010	北陸病院
62	2013	神経精神科	学位取得研究コース	笹林 大樹	男	5年	2011	富山大学附属病院
63	2014	神経精神科	精神保険指定医・精神科専門医を取得する最短3年コース	大口善睦	男	4年	2012	富山市民病院
64	2015	神経精神科	精神保険指定医・精神科専門医を取得する最短3年コース	陸田典和	男	4年	2013	富山大学附属病院
65	2011	放射線科	放射線診断・IVR研究者養成コース	鳴戸 規人	男	8年	2009	富山大学附属病院
66	2013	第一外科	心臓血管外科専門医養成コース	小尾勇人	男	6年	2011	富山県立中央病院
67	2013	第一外科	呼吸器外科専門医養成コース	嶋田喜文	男	6年	2011	富山大学附属病院

	参加年度	診療科名	コース名	医師名	性別	卒後年数	医師免許取得年	所属病院
68	2013	第一外科	心臓血管外科専門医養成コース	松尾辰朗	男	16年	2001	富山大学附属病院
69	2016	第一外科	心臓血管外科専門医養成コース	北村直也	男	3年	2014	富山大学附属病院
70	2016	第一外科	心臓血管外科専門医養成コース	長尾 兼嗣	男	3年	2014	富山大学附属病院
71	2014	第二外科	消化器外科専門医養成・大学院コース	福田卓真	男	4年	2012	富山大学附属病院
72	2015	脳神経外科	脳神経外科専門医養成コース	山本修輔	男	3年	2013	富山大学附属病院
73	2015	脳神経外科	脳神経外科専門医養成コース	白石啓太郎	男	3年	2013	市立砺波総合病院
74	2015	脳神経外科	脳神経外科専門医養成コース	加茂徹大	男	3年	2013	富山赤十字病院
75	2016	脳神経外科	脳神経外科専門医養成コース	瀬川莉恵子	女	2年	2014	富山大学附属病院
76	2013	整形外科	スポーツ外科疾患のマネジメントを修得するコース	大西 慎太郎	男	5年	2011	兵庫医科大学医学部附属病院
77	2013	整形外科	スポーツ外科疾患のマネジメントを修得するコース	二川 隼人	男	5年	2011	黒部市民病院
78	2014	整形外科	スポーツ外科疾患のマネジメントを修得するコース	小林 賢司	男	4年	2012	高岡市民病院
79	2015	整形外科	スポーツ外科疾患のマネジメントを修得するコース	亀井 克彦	男	3年	2013	富山赤十字病院
80	2015	整形外科	スポーツ外科疾患のマネジメントを修得するコース	田村 嵩	男	3年	2013	黒部市民病院
81	2015	整形外科	スポーツ外科疾患のマネジメントを修得するコース	廣川 達郎	男	3年	2013	富山労災病院
82	2016	整形外科	スポーツ外科疾患のマネジメントを修得するコース	上嶋 亮	男	2年	2014	富山大学附属病院
83	2016	整形外科	スポーツ外科疾患のマネジメントを修得するコース	材木 美穂	女	2年	2014	富山大学附属病院
84	2016	整形外科	スポーツ外科疾患のマネジメントを修得するコース	須澤 俊	男	2年	2014	富山大学附属病院
85	2014	産科婦人科	産科婦人科周産期コース2	小林 睦	男	6年	2012	厚生連高岡病院
86	2014	産科婦人科	産科婦人科周産期コース2	安田 一平	男	6年	2012	黒部市民病院
87	2015	産科婦人科	産科婦人科周産期コース2	才津 義亮	男	5年	2013	富山大学附属病院
88	2015	産科婦人科	産科婦人科周産期コース2	生水 貴人	男	5年	2013	富山大学附属病院
89	2016	産科婦人科	産科婦人科周産期コース2	新居 絵理	女	3年	2014	富山大学附属病院
90	2016	産科婦人科	産科婦人科周産期コース2	大北 恭子	女	3年	2014	富山大学附属病院
91	2016	産科婦人科	産科婦人科周産期コース2	川口 美保子	女	3年	2014	富山大学附属病院
92	2016	産科婦人科	産科婦人科周産期コース2	太知 さやか	女	3年	2014	富山大学附属病院
93	2016	眼科	眼科全般コース	畑 恵里	女	9年	2008	富山大学附属病院
94	2014	眼科	眼科全般コース	大塚光哉	男	5年	2012	上越総合病院
95	2015	眼科	眼科全般コース	石田聖朗	男	4年	2013	高岡市民病院
96	2015	眼科	眼科全般コース	阿部慎也	男	3年	2014	富山大学附属病院
97	2016	眼科	眼科全般コース	宮越 茉莉	女	5年	2011	富山大学附属病院
98	2012	耳鼻咽喉科	めまい専門医養成コース	中西 亮人	男	5年	2010	富山大学附属病院
99	2013	耳鼻咽喉科	頭頸部腫瘍専門医養成コース	中里 瑛	男	4年	2011	富山大学附属病院
100	2014	耳鼻咽喉科	めまい専門医養成コース	伊東 伸祐	男	3年	2012	富山大学附属病院
101	2013	麻酔科	麻酔科専門医・スペシャリストコース	五十嵐 太郎	男	5年	2011	富山市民病院

	参加 年度	診療科名	コース名	医師名	性別	卒後 年数	医師免許 取得年	所属病院
102	2013	麻酔科	麻酔科専門医・スペシャリストコース	久保田 亮平	男	5年	2011	富山大学附属病院
103	2013	麻酔科	麻酔科専門医・スペシャリストコース	清水 美彩子	女	5年	2011	富山県立中央病院
104	2012	麻酔科	麻酔科専門医・地域密着コース	本江 純子	女	9年	2009	黒部市民病院
105	2014	麻酔科	麻酔科専門医・スペシャリストコース	池田 紗希代	女	4年	2012	富山大学附属病院
106	2014	麻酔科	麻酔科専門医・スペシャリストコース	亀山 暁世	女	4年	2012	富山大学附属病院
107	2014	麻酔科	麻酔科専門医・スペシャリストコース	小林 慶	女	4年	2012	富山大学附属病院
108	2014	麻酔科	麻酔科専門医・スペシャリストコース	千田 慧子	女	4年	2012	富山赤十字病院
109	2014	麻酔科	麻酔科専門医・スペシャリストコース	立花 怜	男	4年	2012	富山県立中央病院
110	2014	麻酔科	麻酔科専門医・スペシャリストコース	牛尾 和弘	男	4年	2012	富山県立中央病院
111	2015	麻酔科	麻酔科専門医・スペシャリストコース	篠田 正浩	男	3年	2013	黒部市民病院
112	2015	麻酔科	麻酔科専門医・スペシャリストコース	津田 翔	男	3年	2013	富山市民病院
113	2015	麻酔科	麻酔科専門医・スペシャリストコース	日比 大亮	男	3年	2013	富山赤十字病院
114	2015	麻酔科	麻酔科専門医・スペシャリストコース	松尾 光浩	男	4年	2012	富山大学附属病院
115	2016	麻酔科	麻酔科専門医・スペシャリストコース	吉田 雅	男	2年	2014	富山赤十字病院
116	2016	麻酔科	麻酔科専門医・スペシャリストコース	松井 悠	男	2年	2014	富山大学附属病院
117	2014	感染症科	感染症専門医・研究医養成コース	河合 暦美	女性	4年	2012	富山大学附属病院
118	2015	感染症科	感染症専門医・研究医養成コース	東 祥嗣	男性	4年	2012	富山大学附属病院
119	2016	感染症科	感染症専門医・研究医養成コース	松本 かおる	女性	2年	2014	富山大学附属病院
120	2015	病理部	病理専門医育成コース (診断病理医トータルコース)	南坂 尚	男	4年	2013	富山大学附属病院
121	2014	総合診療部	とやまNANTO-RENKEI総合診療医 養成プログラム	山谷 怜司	男	9年	2007	南砺市民病院
122	2014	総合診療部	とやまNANTO-RENKEI総合診療医 養成プログラム	河合 皓太	男	4年	2012	砺波総合病院
123	2014	総合診療部	とやまNANTO-RENKEI総合診療医 養成プログラム	関島 梓	女	9年	2007	かみいち総合病院
124	2014	総合診療部	とやまNANTO-RENKEI総合診療医 養成プログラム	中村 香代子	女	4年	2012	高山市朝日診療所
125	2014	総合診療部	とやまNANTO-RENKEI総合診療医 養成プログラム	村中 絵美里	女	6年	2010	あさひ総合病院
126	2015	総合診療部	とやまNANTO-RENKEI総合診療医 養成プログラム	若栗 良	男	4年	2012	南砺市民病院
127	2015	総合診療部	とやまNANTO-RENKEI総合診療医 養成プログラム	小川 太志	男	3年	2013	南砺市民病院
128	2015	総合診療部	とやまNANTO-RENKEI総合診療医 養成プログラム	中村 一樹	男	3年	2013	利賀診療所